

にじのこ めーる

季刊誌 VOL. 80
2017年6月
特定非営利活動法人にじのこ
理事長 松平 みえ
〒157-0062 東京都世田谷区南青山 6-3-9
ミールズキ 603
Tel:03-5314-2488 Fax:03-5314-2544
URL : <http://nijinoko.jp>
e-mail : mail@nijinoko.jp

INDEX

巻頭言

「梅雨明け？」

理事長
松平 みえ

通常総会報告

平成28年度
事業報告

平成29年度
事業計画

新理事紹介

にじのこ
ホームページ
リニューアル

- にじのこの動き
- THANKS



人口が縮小する中でこの課題に対する予測は大いにあり得る。我が家の犬は遅かれ早かれあの世へのお引越しをするという予測と同様に。それをいかに長く伸ばすか、本犬が望むのならば涼しい風呂場に置き、清潔を保つ工夫をこの夏はしよう。老犬に寄り添い、その傍らで最後の看取りをした。

(松平)

「梅雨明け？」

今年の東京の梅雨はザーンと雨が降ったと思ったらカラッと晴れを繰り返して、もう、真夏の様相で梅雨が早々と明けたのではと思わせる。一方、北九州では大雨による大災害が起きています。我が家の犬のいるベランダはゴージャスの葉が茂り、実がなり始めた。老犬は後脚が萎えて起床後は立てずよろよろしているが、それでも暫くすると立ち上がり、餌を探し回っている。探し当てた餌を食べると一日中、寝ている。5月の連休までかなと思っていたが、まだ元気である。覚悟はしているものの、予想や予測は外れる。果たして???

今年の東京の梅雨はザーンと雨が降ったと思ったらカラッと晴れを繰り返して、もう、真夏の様相で梅雨が早々と明けたのではと思わせる。一方、北九州では大雨による大災害が起きています。我が家の犬のいるベランダはゴージャスの葉が茂り、実がなり始めた。老犬は後脚が萎えて起床後は立てずよろよろしているが、それでも暫くすると立ち上がり、餌を探し回っている。探し当てた餌を食べると一日中、寝ている。5月の連休までかなと思っていたが、まだ元気である。覚悟はしているものの、予想や予測は外れる。果たして???

は全国訪問ボランティアアナイスの会や地域栄養ケアも行っている由。私の知るNPO法人では訪問看護サービスを支えているとの話も聞く中で有償のボランティアのような形の運営は今後、果たしてどうなるのだろうか。他の分野・家庭内暴力からのシエルト作りやフードバンク活動等も善意から始まり、長年活動を続けてきたが、民間の寄付等が望めなくなってきた上、後継者もおらず、事業を存続出来なくなっているとのこと。今流行していくばくかの補助金が出ている子ども食堂もその憂き目を見るかも。必要とされるのに採算がとれない事業は縮小され、その必要性について訴えたり、知恵を働かさねば消滅する可能性がある。今のにじのこが抱えている課題でもある。

人口が縮小する中でこの課題に対する予測は大いにあり得る。我が家の犬は遅かれ早かれあの世へのお引越しをするという予測と同様に。それをいかに長く伸ばすか、本犬が望むのならば涼しい風呂場に置き、清潔を保つ工夫をこの夏はしよう。老犬に寄り添い、その傍らで最後の看取りをした。

にじのこの動き

4月

- 6(木) 部課長会議
- 10(月) 法人職員会議
- 13(木) 4部門合同会議
- 20(木) 事業等検討会 介護会議
- 24(月) ヘルパー会
- 25(火) 理事会 明大ボランティア講座 幼児G保護者会
- 27(木) 監査会

5月

- 10(水) 鳥山地域精神障害者生活支援連絡会
- 11(木) 検討会 理事会 部長会
- 12(金) 自立支援協議会 マニュアルワーキンググループ
- 14(日) 鳥山小地域防災訓練参加
- 17(水) デイ赤堤避難訓練
- 18(木) 部長会 部課長会 介護会議
- 19(金) 「人材育成のための助成金活用方法」研修 デイ給田お話し会
- 21(日) ミニキャブ移送主催 ワークショップ
- 20(土) デイ赤堤トレフル
- 23(火) にじのこ総会 理事会
- 24(水) 介護ケア会議
- 25(木)・26(金) 中堅職員研修会
- 27(土) 世田谷小学校運動会見学
- 29(月) サービス提供者(新任)研修
- 31(水) 幼児G避難訓練

6月

- 1(木) 部長会
- 2(金) 幼児G園外学習
- 3(土) デイ職員会議
- 5(月) 「障害福祉の制度概論 ～切れ目のない支援を目指して～」研修
- 6(火)・7(水) 「同行援護従事者養成研修 応用課程」研修
- 7(水) 上祖師谷中学校学校公開
- 8(木) 4部門合同会議 部長会 算定基礎説明会 介護ケア会議 武蔵野東中部説明会
- 13(火) デイ赤堤避難訓練 鳥山小学校学校公開
- 15(木) 部長会 部課長会 デイ給田避難訓練
- 16(金) 「労務トラブルがおきた時の 初動対応と解決テクニック」研修
- 17(土) すくすくメッセ
- 20(火) 介護人材活用実践セミナー 「人材確保のための助成金」研修 上祖師谷小学校学校公開
- 21(水) 幼児G避難訓練
- 22(水) 青光学園学校公開 デイ赤堤避難訓練
- 27(火) 幼児G就園勉強会 松沢小学校学校公開
- 29(木) 事業等検討会 デイ給田ケア会議 幼児G就学勉強会
- 30(金) 介護ケア会議

★ホームページリニューアル★

…共に寄り添い歩いていきたい…



にじのこのホームページが
新しくなりました
<http://nijinoko.jp>



03-5314-2488

営業時間 10:00～18:00(月～金)



共に寄り添い
歩いていきたい。

にじのこ デイサービス にじのこ ヘルパーステーション にじのこ 相談事業 にじのこ ブログ



デイサービスにじのこ



ヘルパーステーションにじのこ



ヘルパー採用情報



にじのこの理念…めざすもの

支援や配慮を必要とする人と
その家族の生活を支えていくことを第一に

ひとりひとりの可能性を信じ
日々の暮らしの中で個性に働きかけをして
人への愛着感や信頼感
そして自信・意欲を得られるよう支援します

本人や家族にとって
出合いや繋がりの場となり

地域の中で自分らしく暮らせるよう
共に考え歩いていきます



THANKS

ご支援ご協力ありがとうございます

- 賛助会員 上原香代子様 林 幹様 岡野 照様 大坂京子様 木林滋和様 坂本文恵様 清水治子様
- ご寄付 島山美智子様 共同募金様
- ボランティア トレフルクラブ お話し泉 重見 仁様

にじのこ秋のバザー

9/29日(金)・30日(土)

10:00～15:00

鳥山区民センター前広場

皆さまのご協力直しく
お願します!

通常総会報告



平成 29 年 5 月 23 日 (月) 給田施設にて開催

平成 28 年度 事業実施報告

■ にじのこ事業について

1. 支援や配慮を必要とする障がい児者や高齢者が自分の家を中心として、地域の中で生涯にわたり、自分の生活をしていけるように従来通りに児童発達支援事業・放課後等デイサービス事業・介護事業・相談支援事業・自主事業を行った。放課後等デイサービス事業は他の事業所と競合し、毎日の参加人数は少し減じた。相談支援事業は常勤職員2名(実質的には1.5名)が事業所を開設以来4年携わってきたが、人件費が収入を上回り、累積赤字となったため、検討を重ねた結果、相談支援事業を縮小することに決めた。

2. 平成28年度も組織の盤石性をめざし、管理者・主任会議により、理念の再検討、目標管理、人事評価制度の導入について検討し、平成29年度から発効することとなった。法人内事業所間の交流による業務の理解を目的とした相互研修や、幼児グループにじのこの施設内多目的室での保護者交流会等が実施されて効果を得た。災害について危機感を持ち、防災について検討するため連絡会を立ち上げ、避難訓練はもとより毎月の災害伝言ダイヤル(171)による連絡方法を職員等に徹底させた。支援の質を高めるために内部研修を年4回、外部研修への参加を積極的に進め、さらに、他団体に協力し、講師等を務める機会を得た。

■ 介護事業について

(障害福祉サービス・介護保険サービス)

平成28年度は利用者93名、介護職員6名、登録ヘルパー39名でスタートし、月平均1170時間の支援を行うことができた。また、年度の途中で、8名の利用者契約、5名のヘルパー登録があり、そして新たに経験のある常勤職員を採用した。

1. 介護職員を対象に、月2回の会議、内部研修を昨年引き続き実施できた。また年間計画に基づき積極的に外部研修に参加することができ、技術向上への意識が高まった。ケア会議については15件と回数は少なかったが、初めて保護者参加型の会議を実施することができた。

2. 利用者の依頼に応えるため、現在登録しているヘルパーに依頼して、支援時間を増やしてもらい、新たな利用者への支援につなげることができた。

3. 災害時対応について、事務所内の避難訓練・災害伝言ダイヤル(171)体験の実施、防災連絡会を通じて、法人内で災害時の検討を行った。ケア会議に於いて、保護者と共に、災害時の連絡方法について話し合い、災害伝言ダイヤル(171)の体験を行うことができた。

4. 事務の業務内容の見直し↓時間短縮・ミス軽減・マニュアル化(毎月のシフト表作成方法の改善及び簡略化・登録関係のデータ化等エクセルで様式を作成し関数を入れてミス軽減をはかる)

5. 介護保険事業については、今年度は新規受付はなかった。

3. 烏山地域で築いてきた関係機関との関係をさらに広げ、連携を図った。生活支援サービス連携NPO会議の打ち合わせや烏山地区課題報告会にも参加し、地域の現状を知る事が出来た。地域交流を目的として今年度も独自のバザーを春、秋に行った。秋には子ども達が参加し楽しめる場を作り、地域交流を果たした。他には久我山青光学園での「夏まつり」に参加し、出店したり、笑顔せたがや主催の「烏山コミュニティまつり」に参加した。

■ デイサービス事業について 児童発達支援事業 幼児グループにじのこ

4月は登録人数16名、1日平均登録人数は5.9名でスタートした。運営面では、年度途中からの利用者の増加により運営が安定した。さらに希望者が増え次年度の利用希望者もほぼ定員に達している。利用者支援では、理学療法士や音楽療法士等専門家のアドバイスのフィードバックを意識して行った。家族支援では、父親勉強会の他、例年行ってきた就学勉強会に加え、年少児以下を対象に就園勉強会を行った。また、第2子出生時の子育てサポートとして、介護事業と連携しての送迎や、音楽療法に母子で参加している間の兄弟の見守りを、ファミリーサポートに依頼するなど、子育てネットワークとの連携を行うことができた。障害理解と地域連携では、保育士専門学校実習生の受け入れを行った。

■ 相談支援事業について

1. サービス等利用計画の作成について

平成28年度は予約者を優先的に、障害児相談支援8件、特定相談支援4件の契約を行った。新規の予約受け付けは休止した上で業務を継続したが、基本相談やサービス担当者会議、サービス事業所探し等に時間を割かれる中で、モニタリング、利用計画の作成の業務をこなしていくことの困難さがあった。また、経費に対する収入の少なさが法人全体の課題ともなり、事業縮小の運びとなった。

2. 研修・連携について
世田谷区を行うケアマネジメント研修や他の団体の行う研修に参加して研鑽を積んだ。世田谷区指定特定相談支援事業者全体連絡会、烏山エリア自立支援協議会運営会議、烏山地域特定相談支援事業所連絡会、烏山精神障害者生活支援連絡協議会等に参画した他、烏山地域相談支援センター主催のイベントに協力した。

3. 事業収支について
相談支援事業の報酬についてはもともとの国の報酬設定に問題があり、独立採算を得るのは難しい。世田谷区内で障害児の相談支援を行っている事業所は少なく、依頼は多いものの1人の利用者にかかる時間や経費と、モニタリング、利用計画作成で得られる収入が折り合わず、世田谷区とも話し合い、現状の課題を投げかけたが、やむを得ず事業の縮小を検討していくことになった。

放課後等デイサービス事業

〈デイサービスにじのこ給田〉

平成28年度は、登録人数35名、1日平均登録人数は10.8名でのスタートとなった。利用者支援では、職員が研修や資格取得を積極的にを行い、スキルアップを図るとともに、非常勤職員もプログラムリーダーの役割を担うなど、支援内容の幅が広がった。家族支援では、送迎のニーズに対し介護事業に繋げるとともに、ボランティアにガイドヘルパー資格取得の推進をすることで、ヘルパーニーズの受け皿の拡充にも繋げることができた。障害理解と地域貢献では、中学生、大学生、保育実習生など延べ136名の多様な年齢のボランティアを受け入れることができた。

〈デイサービスにじのこ赤堤〉

平成28年度は登録人数25名、1日平均登録人数は8.5名でのスタートとなった。利用者支援では、事前のアンケートの要望を取り入れ、夏休みの1日プログラムを行い、昼食作りも行った。家族支援では、キャンセル待ちを積極的に受け入れる他、デイサービス職員によるヘルパー送迎を積極的にに行った。障害理解と地域貢献では、看板の設置、社会福祉協議会ホームページや地域回覧板に施設紹介を載せ、地域に活動を知っていたくことができた。安全面では、昨年度に引き続き月1〜2回の避難訓練を行い、職員間で危機管理に対する認識の共有を行った。法人内合同避難訓練では、地域の第一避難所までの間の公衆電話の確認と、職員間の緊急ラインの設置と試行を行うことができた。

平成 29 年度 事業実施計画

■ にじのこ事業について

1. 支援や配慮を必要とする障がい児者や高齢者が自分の家を中心として、地域の中で生涯にわたり、自分なりの生活をしていけるように児童発達支援事業・放課後等デイサービス事業・介護事業・相談支援事業・自主事業を平成29年度も行う。但し、相談支援事業については職員を減らし、縮小を図る。

また放課後等デイサービスについても他事業所との差別化を図った上、収支の健全化を検討したり、新たな事業について検討していきたい。

2. 平成29年度も組織の盤石性をめざし、人事評価制度を取り入れ、部課長会議を定着させ、全職員の情報の共有化をはかり、相互に協力しあう体制を作るよう努める。支援の質を高めるために年4回の内部研修、外部研修への参加を積極的に働きかけ、さらに、他団体に協力し、連携をもち、学びあい、法人自体の質をあげていきたい。

3. 烏山地域で築いてきた関係機関との協力を今後も行い、地域社会に貢献していく。交流を目的として平成29年度も独自のバザーを秋に行い、笑顔せたがや主催の烏山コミュニティまつりや、久我山青光学園での夏まつりなどに参加し、交流を深めていきたい。災害についても当法人や各事業所が地域と連携し、検討を重ねていきたい。

■ 理事 1名選任

理事については従来7名のところ、昨年より6名体制で運営しておりましたが、事業活性化のため新理事1名を選任し、総会にて承認されました。

新理事 土屋 仁

今年度も、皆さまのご協力を宜しくお願い申し上げます。